

第20回新ごみ処理施設建設及び 周辺整備調査特別委員会会議記録

日 時 平成31年2月19日（火曜日）
場 所 水戸市議会 第1・第2委員会室

午後 1時 1分 開議
午後 1時28分 散会

付託事件

- (1) 新清掃工場及び最終処分場の建設，整備計画に関する事項
- (2) 地元還元施設を初め，新施設周辺地域の生活環境整備に関する事項

1 本日の会議に付した事件

- (1) 新ごみ処理施設周辺施設（自由広場，緩衝緑地帯等）整備基本計画（案）について
- (2) 水戸市一般廃棄物第三最終処分場埋立施設建設工事の変更について
- (3) 水戸市新斎場整備基本計画について

2 出席委員（25名）

| | | | |
|-------|-------------|---------|-----------|
| 委 員 長 | 福 島 辰 三 君 | 副 委 員 長 | 小 川 勝 夫 君 |
| 委 員 | 綿 引 健 君 | 委 員 | 堀 江 恵 子 君 |
| 委 員 | 土 田 記 代 美 君 | 委 員 | 田 中 真 己 君 |
| 委 員 | 中 庭 次 男 君 | 委 員 | 飯 田 正 美 君 |
| 委 員 | 鈴 木 宣 子 君 | 委 員 | 田 口 文 明 君 |
| 委 員 | 大 津 亮 一 君 | 委 員 | 小 泉 康 二 君 |
| 委 員 | 木 本 信 太 郎 君 | 委 員 | 栗 原 文 隆 君 |
| 委 員 | 高 倉 富 士 男 君 | 委 員 | 黒 木 勇 君 |
| 委 員 | 村 田 進 洋 君 | 委 員 | 渡 辺 政 明 君 |
| 委 員 | 須 田 浩 和 君 | 委 員 | 五 十 嵐 博 君 |
| 委 員 | 伊 藤 充 朗 君 | 委 員 | 安 藏 栄 君 |
| 委 員 | 内 藤 丈 男 君 | 委 員 | 袴 塚 孝 雄 君 |
| 委 員 | 松 本 勝 久 君 | | |

3 欠席委員（なし）

4 委員外議員出席者（1名）

議 長 田 口 米 藏 君

5 説明のため出席した者の職，氏名

| | | | |
|-------|---------|--------|-------------|
| 副 市 長 | 田 尻 充 君 | 副 市 長 | 秋 葉 宗 志 君 |
| 市長公室長 | 武 田 秀 君 | 政策企画課長 | 長 谷 川 昌 人 君 |

| | | | | | |
|------------------------|----|------|------------------------|-----|-----|
| 総務部長 | 荒井 | 宰君 | 行政改革課長 | 川上 | 悟君 |
| 財務部長 | 園部 | 孝雄君 | 財政課長 | 梅澤 | 正樹君 |
| 契約検査課長 | 青山 | 和夫君 | | | |
| 市民協働部長 | 鈴木 | 吉昭君 | 市民協働部長 副部長 | 横須賀 | 好洋君 |
| 体育施設整備課長 | 太田 | 達彦君 | | | |
| 生活環境部長 | 川上 | 幸一君 | 生活環境部 参事 | 佐藤 | 則行君 |
| 生活環境部 参事兼 ごみ対策課長 | 篠原 | 勤君 | 生活環境部 参事兼 清掃事務所長 | 齋藤 | 利光君 |
| 衛生管理課長 | 渡邊 | 徳子君 | 新ごみ処理 施設整備課長 | 宮田 | 正一君 |
| 建設部長 | 猿田 | 佳三君 | 建設部技監兼 建築課長 | 小林 | 幸夫君 |
| 都市計画部長 | 高橋 | 涼君 | 都市計画部長 副部長 | 川崎 | 洋幸君 |
| 公園緑地課長 | 上田 | 航君 | | | |
| 6 事務局職員出席者 | | | | | |
| 事務局長 | 小嶋 | 正徳君 | 事務局次長 兼総務課長 | 関谷 | 勇君 |
| 議事課長 | 永井 | 誠一君 | 議事係長 | 綱島 | 卓也君 |
| 書記 | 大内 | しおり君 | 書記 | 玉田 | 誠一君 |

午後 1 時 1 分 開議

○福島委員長 御苦労さまです。

定足数に達しておりますので、ただいまから第 20 回新ごみ処理施設建設及び周辺整備調査特別委員会を開催いたします。

議事に先立ちまして、大森建設計画課長が公務出張のため、欠席との連絡がありましたので、御報告します。

この際、お諮りいたします。当委員会における着席の位置につきましては、現在御着席のとおりとさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○福島委員長 御異議なしと認め、そのように決定させていただきます。

これより議事に入ります。

初めに、1 番の新ごみ処理施設周辺施設整備基本計画（案）について、執行部から説明願います。

宮田新ごみ処理施設整備課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 自由広場、緩衝緑地帯等の新ごみ処理施設周辺施設整備基本計画につきましては、地域住民の要望、意見を十分に反映させる計画とするため、下入野町の皆様と計画内容についての協議を行い、地域の声を踏まえた基本計画（案）としてまとめましたことから、生活環境部新ごみ処理施設整備課提出の特別委員会資料 1 に基づき御説明いたします。

初めに、1 ページの基本計画策定の趣旨につきましては、事業用地内に整備することとした自由広場、緩衝緑地帯及び水辺環境施設について、その整備基本方針や整備計画、事業スケジュールなどを定めるものであります。

本計画の対象区域につきましては、4 ページ、現況概要図のオレンジ、グリーン、ブルー表示の約 20 ヘクタールで、現況については、5 ページの空撮写真にございますように、自由広場用地は造成工事を行い平場となっており、緩衝緑地帯及び水辺環境施設用地はそれぞれ原林や湧水湿地となっております。

6 ページ、7 ページをお願いいたします。

統計等の作成に当たっては、地域住民の要望では、自然環境、さらには自由広場がごみ処理施設の次期用地であるという将来土地利用にも考慮する必要があります。

これらのことを踏まえ、8 ページに記載のとおり、施設整備に当たっての基本理念を、自然と共生し、気軽に運動できる環境づくりとし、それぞれの施設ごとに基本方針を定めております。

9 ページに、基本方針を踏まえた施設整備の具体的な内容を記載しております。

10 ページの施設イメージ図をお開きください。

図面中央の自由広場については、野球、サッカーなどに利用できる多目的広場を整備することとし、その外周に色分け舗装したジョギング・サイクリングコース、芝生の丘、駐車場、トイレなどを設置いたします。

緩衝緑地帯の約 12 ヘクタールの部分をごらんください。林内を散策できる遊歩道とベンチなどを設けた休憩のできる広場の整備を行います。

図面中央左側の水辺環境施設は、湧水湿地を保全することを目的とした親水広場の整備を行います。

以上、御説明いたしました施設の規模や詳細な内容については、今後それぞれの施設整備ごとに行う基本設計、実施設計において検討してまいります。

事業スケジュールについては、11ページのとおり記載して行います。

12ページの概算事業費については、全体事業費で約7億3,600万円とされております。今後、設計段階において十分精査し、事業費の抑制に努めることといたします。

資料1についての説明は以上でございます。

○福島委員長 この際、御報告します。本日、一般傍聴人1名がお見えになりますので、よろしく願いいたします。

〔傍聴人入室〕

○福島委員長 それでは、ただいまの説明に対し、御質問等がございましたら発言願います。

松本委員。

○松本委員 10ページの中で、何か話を聞きますと、どの部分だかわからないんだけど、瓦れきが出てきてしまったというような話をちらっと聞いたんですけれども、それはどの辺の部分にそういう場所が出たんですか、これ。

○福島委員長 宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 瓦れきというか地中障害物ということで、この後御説明を申し上げますけれども、第三最終処分場の建設用地というところになります。

○福島委員長 後で御説明申し上げます。

ほかにごありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○福島委員長 ないようでございますので、本件に関して、終わらせていただきます。

次に、2番の水戸市一般廃棄物第三最終処分場埋立施設建設工事の変更について、執行部から説明願います。

宮田新ごみ処理施設整備課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 続きまして、資料2の水戸市一般廃棄物第三最終処分場埋立施設建設工事の変更について、御説明いたします。

第三最終処分場の少しでも早い完成を目指すため、変更内容について本特別委員会に御報告申し上げ、御承認をいただいた後、速やかに工事等を進めさせていただきたいと考えております。

1の変更内容等についてをごらん願います。

概算変更額の内訳1の地中障害物の除去につきましては、あわせて4ページの地盤改良工平面図をごらん願います。

黒丸と赤丸で表示してあります合計1,723カ所が地盤改良施工箇所となっており、赤丸の45カ所については地中に障害物があり、地盤改良工事を進められないため、障害物を取り除く工事を追加する必要性が生じました。そのための費用として約1億4,000万円の増を見込んでおります。

内訳2の地盤改良工に係る数量等の変更につきましては、支持地盤までの深さや土質が設計上の調定と一

部異なっていたことから、改良の範囲や深さなどを見直したことにより、その費用として約8,300万円の増を見込んでおります。

内訳の1, 2を合わせて約2億2,300万円の増となります。変更後の概算契約額は、表の一番右下に記載しております, 約34億7,380万円でございます。

2ページ, 2のスケジュールにつきましては、本日の特別委員会において御承認をいただいた後、赤い線に表示してある日程のとおり、直ちに地中障害物の除去及び地盤改良工事を進めてまいりたいと考えております。このことにより、完成は当初予定の2020年6月から同年11月となる見込みです。また、当該案件は工事請負契約の変更に係る議案となることから、3月議会に提出してまいります。

資料の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○福島委員長 ただいま、説明をいただきましたが、これは3月定例会に出す議案でございますので、その内容に触れない程度で何か御質問等がございますか。

松本委員。

○松本委員 大体場所はわかりました。

これまで報告は受けていますけれども、全体的な中で地質調査というのをやりましたよね。そうするというと、ここの部分等の地質調査はやらなかった、抜けていたということになりますか。これだけの施設をつくる場所というものは、当初から計画されておったんだけれども、こういう瓦れきだか何だかわからないけれども出てきてしまったということは、ここの部分に対しての地質調査は抜けておったということになるんでしょうか。

○福島委員長 宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

第三最終処分場を建設する上で、その基礎として適する地層の構成や土質の状況を確認するために、平成18年度から平成28年度にかけて19カ所のボーリング調査を実施いたしました。

○松本委員 だからここはやらなかったということね。

○福島委員長 この際、御報告します。

一般傍聴人1名が追加でお見えになりましたので、これを許します。

〔傍聴人入室〕

○福島委員長 松本委員。

○松本委員 同じことを聞いちゃうんだけれども、だからここは第三最終処分場の建設予定地でしょう。じゃ、19カ所の調査をやったという報告だよね。ここの部分についての地質調査というのはやらなかったんですかと私は聞いているのであって、何カ所だのどうだの、平成18年度から始めたのどうだのこうだのって話じゃないの。ここを最初からこういう計画で、ここはこういうものがつくれるというのは計画の中であつたと思うの、買収してから。そのときに、ここはやらなかったんですかと聞いているんですよ。

○福島委員長 難しい質問じゃないんだよ。今回出た議案になる箇所が地質調査の中に入っていたんじゃないかという質問なんです。入っていなかったって言えばいいじゃない。

だからそうしたらまた質問が出ます。

宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 第三最終処分場の建設地におきまして、19カ所のボーリング調査、そのほかに契約の12カ所、事業者のほうでもボーリング調査を実施しております。だから事前のボーリング調査におきまして、今回地盤改良工事の支障となるような障害物の存在というものは確認されなかったというところでございます。

○福島委員長 だから具体的に、ここは調査やったのかやらないのかと。難しい質問を言っているんじゃないんだよ。今度議案になるところは地質調査をやったんだから、当然事前にわかるわけだろうと。今度はわからなくて出たって言うのは、調査の範囲に入っていたのか入っていなかったのかという質問なの。難しい。

宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 ボーリング調査は実施しましたが、今回出たところにつきましては、ボーリング調査の計画に当たらなかったというところで……

〔「当たってなかったんだっぺ、要するに」と呼ぶ者あり〕

○福島委員長 宮田課長、素直に答えて。今回出たところは、松本委員も言っているんだから。事前に調査の範囲に入っていたら、出るわけないだろうに。そこは含まれていなかったんですよって。やりましたけれども、そういうこと言う必要ないでしょう、やらなかったんでしょう。やったの、どっちなの。

宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 4ページの黒丸、赤丸のところに表示してございますけれども、赤丸表示のところはボーリング調査がピンポイントで行ったところではございません。

○福島委員長 何を言っているんだ。やったかやらなかったかなんだから、根底はやらなかった場所ですと言えればいいじゃん。

〔発言する者あり〕

○宮田新ごみ処理施設整備課長 ボーリング調査を実施したところですけども、そのところにつきましては、抜けたところでございます。

○福島委員長 田中委員。

○田中委員 質問させていただきます。

平成28年12月にこの委員会が行われたときに、そのときは造成の問題でしたけれども、造成時に混合廃棄物、コンクリート殻、廃タイヤ。この場所は第二工区に当たると思うんですが、造成工事上はですね。680立方メートルのあるべきでないものを処分したということで、いわゆる工区ごとの増額補正をしたと思うんですよ。そのときに見つかったものとは違うものがまた出てきたというふうに理解すればいいのか。なぜそのときに撤去し切れなかったのか。深さが違うのか、どういう問題なのかというのがちょっと理解できないんですけども。

地中障害物というのは、当時見つかった混合廃棄物とかコンクリート殻とか廃タイヤと同じようなものだという理解をすればいいのか。その点を説明いただきたい。

○福島委員長 宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 当時行った造成工事におきましては、土質の不均一の地盤が確認されました茨城町との境界付近においては、地盤改良を行っております。そのときに出てきたごみというか障害物については、当時処分したところでございます。

それから、最終処分場の東側の調整池を掘削するときに出てきたごみについても処分をしております。

そのほかは、掘削工事とか造成のときにしておりませんので、そのときのごみについてはごみとか造成工事で掘削しておりませんので、そこについては処分とかそういうことはしておりません。

○福島委員長 宮田課長、委員長のほうから聞きますが、今質問されたところは、今回の件に入っていないところでしょう、出たのは。今回のところなの。それは具体的に言って、茨城町よりだの何だのかんだのと言っているけれども、今回のが含まれたところなの、含まれていないの。

宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 今回とは別の区域でございます。今回のところは含まれておりません。

○福島委員長 田中委員。

○田中委員 第二工区造成工事のときの第二工区の区域ではありますよね、そういう図面上は合っていると思うんです。造成の第二工区はもっと広いですけども、今回の第三最終処分場の予定地も第二工区には入っていますよね。そのとき造成はしたわけなんですか。そのときには、地中障害物というのは見つからなかったということの御理解でいいですかということと、それから地中障害物というのは当時、造成工事上で見つかったいわゆるコンクリート殻とか混合廃棄物と同じものだという意味ですかと、この答えになっていないんですけども。この点だけお願いします。

○福島委員長 宮田課長。

○宮田新ごみ処理施設整備課長 当時、行いました造成工事が第二工区というところになりますけれども、その当時は掘削ではなくて盛り土工事をしたというところなので、地中の状態まではわかっておりません。出てきた地中障害物というところにつきましては、コンクリート殻です。

○福島委員長 よろしいですか。

これは議案に上がりますので、もしも今の答弁で不可欠なところがあれば、正式に議案に出してから、本会議で御質問ください。以上です。

ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○福島委員長 それでは、次に、3番の水戸市新斎場整備基本計画について、執行部から説明願います。

渡邊衛生管理課長。

○渡邊衛生管理課長 それでは、水戸市新斎場整備基本計画につきまして、衛生管理課から御説明いたします。

本計画につきましては、委員の皆様へ素案を送付した上で、1月8日から2月3日までの間、意見公募手続を実施いたしましたが、市民の方からの御意見がございましたので、素案のとおり水戸市新斎場整備基本計画として決定し、本日御報告をさせていただくものでございます。

お手元の特別委員会資料3により御説明申し上げます。

1, 基本計画策定の趣旨につきましては、昨年度策定いたしました水戸市新斎場整備基本構想を踏まえ、新斎場の施設整備に係る基本的方向の具体化を図るものでございます。

次に、2, 新斎場の施設機能につきましては、図にお示ししております基本構想で定めた4つの機能について、具体的な検討を行っておりますので、恐れ入りますが、資料の基本計画の5ページをあわせてごらん願います。

まず、火葬部門でございますが、火葬炉の整備基数につきましては、基本構想で決定いたしました4基に加え、予備炉1基分のスペースを確保いたします。

6ページをお開きください。

続きまして、(2)告別室、炉前ホール、収骨室につきましては、遺族の心情やプライバシーに配慮し、告別と収骨が同一室でできる形態といたします。

7ページに移りまして、2, 待合部門のうち、(1)待合ホールにつきましては、複数の遺族等の共有スペースとなることから、落ちつきのある空間とするとともに、(2)待合室につきましては、洋室5室を基本としながら、可動式間仕切り等により利用者数に応じた弾力的な運用を図れる形態といたします。

3, 式場部門のうち、(1)式場につきましては、80人程度と160人程度が収容可能な2式場を整備し、こちらにつきましても弾力的な運用を図れるようにいたします。

(2)遺族・司祭者控室につきましては、式場に近い位置に設け、休憩、会食等に利用できるようにいたします。

8ページをお開きください。

4, 外構につきましては、現斎場の駐車場利用状況等を参考にして駐車台数を設定するとともに、周辺環境と調和のとれた緑地整備を行います。

9ページをごらんください。

5, その他といたしまして、斎場を整備、運営する上で重要となる業務継続性の確保、ユニバーサルデザインの導入、ランニングコストの抑制を位置づけております。

特別委員会資料3にお戻り願います。

3, 動線計画についてでございますが、斎場の整備に当たりまして、建物の内外を問わず、遺族、会葬者、職員等が交錯せず、スムーズに移動が行えるレイアウトといたします。

施設配置につきましては、資料4, 基本計画の11ページをあわせてごらん願います。

整備用地の立地条件を踏まえ、幹線市道常澄6-0015号線沿いに出入り口を設け、出入り口側に駐車場を、敷地奥側に建物を配置いたします。あわせて、敷地前面の幹線市道常澄6-0015号線の拡幅整備を行います。

特別委員会資料3の2ページをごらん願います。

4, 事業手法の検討についてでございますが、新斎場整備事業につきましては、基本構想においてPFI方式等の民間活力の活用も検討することとしておりましたことから、導入の可能性について市場調査を実施いたしました。その結果、VFM算定において、PFI方式のうち、DBO方式が若干有利との結果が出ました。しかしながら、スケールメリットが小さいことや、なによりも超高齢化社会を見据え、設計、建設、

維持管理等において、本市の意見を十分反映させた事業を推進する必要性に鑑み、事業手法については従来方式を基本とすることといたします。

なお、運営に当たっては、今後、より効率的かつ効果的な手法を採用いたします。

5、整備スケジュール等につきましては、(1)整備スケジュール表のとおり、来年度、火葬炉メーカーを選定した上で、その火葬炉メーカーの特性を反映させた基本・実施設計を策定いたします。2024年度の稼働を予定しておりますが、地元から早期の整備要望がありますことから、できる限り工期短縮に努めてまいります。

(2)施設整備費につきましては、37億7,700万円を見込んでおります。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○福島委員長 それでは、ただいまの説明に対し、御質問等がございましたら御発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○福島委員長 ないようでございますので、終わります。

それでは、以上をもちまして、本日の特別委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午後 1時28分 散会